

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県人吉市南泉田町115		
自己評価作成日	平成 25年 1 月 14日	評価結果市町村受理日	平成 25年 2月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケア(笑顔プロジェクト) 医療との連携(訪問看護、医療機関との連携) 学習療法 季節の行事 (ハード面) 太陽光発電、天然温泉、防火・耐火建築

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔で利用者の目を見て話し、誠意をもって接する。そして、決して否定しない「笑顔プロジェクト」は今年も引き続き続行中である。そこで事業所では、さらなるレベルアップを目指して、職員研修会への参加を積極的に推し進めている。具体的には、旅費と研修費用の助成である。また今回、理念も「安心、信頼、真心、チームワーク、笑顔」という職員の総意による職員の手作りのものに再構築している。昨年以上の成果が期待できそうである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆でつくった理念を施設内に掲示し、朝礼時に唱和している。今回、アンケートとグループワークを行って理念の再構築をおこなった。	事業所では今回、全職員が参加して理念の再構築を行なっている。ケアにあたって大切な事、当たり前の事が出来ているか、基本の確認など話し合い、職員総意の理念を作り上げている。大変分かりやすい言葉でまとめられており、実践にも弾みがつくものと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや文化祭等、行事を行って、地域の人にも施設に来ていただく機会を設けている。行事の際は特にシルバー人材センターにはお世話になっている。	夏祭りや文化祭など行事を行なう際のシルバー人材センターとの相互協力関係、夏休みに取り組んでいるボランティアスクールの受け入れ、また最近では月に1回、多目的ホールを開放しての地元スーパーの出張販売など、地域の方々とのつながりに力を置いた取り組みを行なっている。	今後より一層、地域とのつながりを深めるうえで、町内自治会等が行なう清掃活動や、リサイクル活動などへの参加も検討して欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトとして講師を務めている。(小学校・中学校・一般)。ホームヘルパー養成研修の施設実習を受け入れている。その他ボランティアスクール(小学生)や職場体験(中学・高校)を受け入れている。徘徊模擬訓練では徘徊者役を務めるなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に地域での行事予定などの情報を得て、外出の機会を得ている。また利用者の状況を報告し、事業所の理解を得るよい機会となっている。	2ヶ月に1回行なわれる会議には、メンバーとして市役所の担当者、社会福祉協議会の担当者、民生委員、利用者の家族が出席している。そこでは、利用者の状況、また事業所としての取り組み等の報告を行なっている。その他、地域の行事予定などを得るいい機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	改めて連絡をとる機会はないが、認知症サポーター養成講座は包括センターと協働して行っている。また運営推進会議に市役所・社会福祉協議会の担当者の方に参加していただいております、状況を報告している。	運営推進会議には市役所の担当者、社会福祉協議会の担当者も出席しており、また認知症サポーター養成講座は、地域包括支援センターとの協同行なうなど、市と事業所は良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を実施し、外部の研修にも参加している。玄関の施錠はしていない。また、定期購読している専門誌でも学習できる体制がある。	事業所では、身体拘束をしないケアの実践に力を入れて取り組んでいる。内部研修のほか、外部研修においても、交通費・受講料を負担して、積極的に受講を支援している。また、ふれあいケア・認知症ケア最前線という専門誌も購読し、スキルアップにも努めている。	

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を含めて、勉強する機会はある。職員研修では介護職員が担当して講師役を務めた。日頃の声のかけ方等、何気ない日常の小さな問題を放置すると次第に大きな問題になり、最終的に虐待につながるという意識を持つように指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	利用者に成年後見制度を利用されている方がおり、研修も行っている。年間の研修計画には虐待・権利擁護接遇等を必ず盛り込むようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間をかけて説明している。他のサービスも紹介して納得の上、契約していただいている。自立度が向上した方には有料老人ホームへ移動していただいたこともある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や、病状報告等、個別の対応について話をすることは多いが、運営そのものに関する要望などについては特にでない。	今までのところでは、利用者や家族などから運営に関する意見や要望は取り立てて出ていない様である。今後の事として、利用者や家族などへのアンケート調査は検討中との事である。	意見や要望、また苦情に関する第三者機関のポスター掲示をお願いします。意見や要望から気付かれることもあると思います。今後とも、意見や要望の出しやすい環境作りに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ケース会議を行って意見を出し合っている。また職員に対して個人面接を行い各人の考えや要望を聞くようにしている。理念の再構築については、職員から出た意見・言葉を最大限尊重して出来上がったものである。	年に2回個人面接を行ない、意見や提案を聞く機会を設けている。それ以外に特別に時間を取るようにはしていないが、職員はみんな前向きで、いいと思うことは実行してみることが管理者の考えである。これまで、忘年会、クリスマス会、外食、マクドナルドでの食事など、職員の発想から行なったものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、研修費の助成制度、認知症関連の研修への推薦等を行っている。忘年会や花見等、慰労の機会も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示板に各種研修会の案内を紹介している。専門誌を2誌、定期購入し職員間で回覧している。普通救命講習もほぼ全員が受講した。職員研修では各職員に担当して発表してもらい、知識の向上に努めている。今年度は介護福祉士の合格者がおられた。また無資格で就業されたスタッフが働きながらホームヘルパー2級の資格を取得された。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加しており、連絡会で行う研修会へ参加している。今年は研修会場の提供も行った。また、連絡会の忘年会へも参加してスタッフ間の交流を図ることができた。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時にアセスメントをとり、安心して生活していただけるように集中的にコミュニケーションをとるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの希望・要望等の話を聞き、その内容に近づけるように努力している。ただし今年度は新規利用者はわずか1名であった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった時は性急に事を運ばず、他の関連施設の職員の意見も参考に、法人内外のサービス利用を含めた検討を行い、利用者の方へ予後予測を踏まえた説明に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、日常生活ができるように支援するように心がけている。なるべく役割をもってもらうように、洗濯物たたみ・掃除・調理の一部補助等一緒に行うように心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも面会できるように環境を整え、遠方のご家族には毎月のお便りや電話の取次ぎを行い本人との絆を大切にしている。また、受診時には必要に応じてご家族の同行を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が過ごしておられた家や地域へ散歩やドライブに行き、思い出してもらっている。地域の祭り等へ参加するようにしている。人吉くんち祭りの神幸行列は施設の近くを通る。	利用者の中には、今まで住み慣れた自宅の仏壇参りを希望される方もおられ、その場合は職員が同行支援している。また、散歩やドライブコースの選定には、これまで過ごして来られた馴染みの場所を取り入れ、支援するようにしている。恒例の初詣では、神社と連絡を取り、欠かさず支援している。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を大切に、食事の時の座る位置等、孤立されないように配慮している。認知症のタイプが似た人同士はなるべく一緒に過ごして頂いている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	有料老人ホームへ行かれた方が数名おられるが、時々訪れて、状況をうかがっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の明確な意思が分からない場合が多いが、その場合は本人の意向を推し量って、支援している。個別ケアの話し合いも行っている。	日々のかかわりの中で、常にアンテナをはり把握に努めている。食べ物や果物の趣向の話の中から、コーヒーを入れる事が得意だったとか、農業の話しからからも栽培を取り入れてみようなど情報収集に力を入れ、利用者本位の暮らし方が出来る様取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当していたケアマネやご家族、他のサービス担当者からの情報をもらい、これまでの生活内容を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録により、一人一人の心身状態や生活動作、心理面を把握し申し送りやホーム内のノートに記入しスタッフ全員で把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に昔の話、以前の状態を聞きながらケアに取り入れている。ケース会議にて訪問看護と話し合っている。月に1度グループホーム職員同士でケア会議を行って、介護計画に活かしている。R4システムはかなり有効なツールである。	月に2回行なうケース会議では、訪問看護師と話し合い、また月に1回は職員同士ケア会議を行ない、現状に即した介護になるよう取り組んでいる。その他、老健協のR4システムも採用しており、そこには理学療法士、栄養士、看護師等の意見も反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録をとっている。職員間で情報を共有できるように朝礼で申し送りをしている。笑顔プロジェクトは有効な試みととらえており、現在も継続している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人・家族の状況に合わせまたその時々問題点を相対的にみるようにしている。入浴や受診を予定しても状態次第では延期するなど、柔軟に対応できるようになってきた。また散歩は集団で行わず、個別で行うことも多い。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや産業祭、おくんち祭り、地元で話題になっているクリスマスイルミネーションを見に行ったりしている。25年度では地元のスーパーが出張販売に来てもらう予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て、基本的に同じ法人内の医療機関をかかりつけ医としている。必要に応じて皮膚科・眼科等の他科受診、歯科受診、病状次第では総合病院受診など支援している。	現在、利用者全員が同法人内の医療機関をかかりつけ医としている。夜間の対応については、訪問看護師の指導のもと、適切な医療が受けられるよう支援している。また、協力医院内に認知症サポーター医の養成講座を受講した医師もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携しており、毎週月曜に訪問して健康チェックをもらっている。その際に気づきや変化を報告して指示・指導を仰いでいる。気になるときは外来もふくめて随時連絡・相談している。ケース会議にも参加してもらい、R4にもコメントを入力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	R4システムを活用して、入院時の情報提供を行っている。また、法人内の入・退院調整会議に参加して関係づくりに取り組んでいる。入院されれば、外来リハの送迎時などにお見舞いに行き、状況を把握するようにしているが、今年度は入院もほとんどなかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、特別な本人・家族との話し合いは行っていないが、重度化されている利用者の家族へ介護療養病棟への移動の話をしたところ、「なるべくここで過ごさせてほしい」という希望から、継続されている方がいる。	重度化した場合の対応については、訪問看護師の指導のもと適切な医療が受けられるよう支援している。また、終末期の看取りについては今のところ事例はない。今後についても予定していないということである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命講習をほぼ全員の職員が受講している。また、併設の小規模施設にAEDを設置したが、その際にも講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。前回は消防署の立会のもと行った。しかし、地域との協力体制は未だ築けていない。	同法人のほかの事業所と合同で、年2回の避難訓練を実施している。うち1回は消防署指導のもと行ない、消化器の実演訓練も行っている。また、調理器具もガスではなく、電化となっている。	今後の取り組みとして、近隣との協力体制づくりと災害時の水・食糧の備えについて検討をお願いしたいと思います。

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の皆さんの性格を把握し、目線を合わせることで笑顔を忘れずに、その人その人にあつた声掛けを行うように努めている。また、失禁などで更衣の必要がある場合などにはスクリーンをするなどの配慮をしている。	一人一人の人格を尊重した対応として、言葉使い、目線を合わせ、笑顔を忘れない、誠意を持って対応し、否定しないことなどをモットーに支援している。また、プライバシーの確保については、契約書に盛り込んでおり、医療機関や行政への対応など、使用目的の確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉に耳を傾け、本人の思いや希望を聞き、可能な限り自己決定を促している。また、今よりも積極的に声を掛けることが大事であることを話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースになるべく合わせようと努力はしているが十分でない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティア訪問でこられる美容師によるカットやホーム内で職員にて髪染めを行ったり、おしゃれが出来るように支援している。また、ご家族がなじみの美容院へ連れて行かれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の好みのおかずは出せていないが、職員と一緒に昼食や夕食づくり、おかずのつぎわけなどは行ってもらっている。また外食を行ったところ、好評であった。	法人全体で業者から食材を購入しており、それぞれの事業所で調理する体制を取っている。月に1回は栄養士や業者を含めて給食委員会が開かれており、そこでは利用者本位の改善点や反省点が話しあわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てたメニューにて、食材を搬入して台所で職員が調理している。水分はコーヒーや牛乳、ゼリー等、なるべく多くとれるように配慮している。利用者一人一人に合わせて食事の提供方法について工夫している。R4に栄養士のコメントを入力してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い、口腔ケアを実施している。拒否や指示が必要な方へも声掛けの工夫や歯ブラシを手渡すようにしている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別にトイレチェックを行い、時間・排泄パターンを観察し、できるだけトイレを一人でできるように声掛けし、おむつの検討も随時行っている。場合によってはポータブルトイレも利用している。	水分チェック表や排泄チェック表はパソコンで管理し、内科とも連携を取っている。一人一人の排泄パターンや特徴をつかみ、声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。また、夜間のみオムツを利用される方が一名おられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずは水分摂取が重要と考え、1200ccを目標としている。食物繊維の摂取を確保するため、昼食には麦ごはんを提供している。また、毎日の体操や、振動マシンに乗って頂いたり、散歩を励行している。最終的には訪問看護師にアドバイスをもらいながら、下剤の検討を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴状態を把握するために、週3回ずつ、メンバーを決めて入浴してもらっているが、体調や希望に合わせて柔軟に対応している。ヒノキぶろで、天然温泉を利用できる。	入浴が楽しみなものになる様、検湯船に天然温泉が引かれている。入浴支援は、その日の体調や希望に添って週3回行なわれている。時間帯は午前10時～11時30分、午後が2時～4時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファの設置や、マッサージ機の設置、あるいは畳のコーナーを設けるなど、休息できるようにしている。昼間はなるべく活動にお誘いして安眠につながるようになっているが、無理強いはいないように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服処方ファイルに保管していつでも確認することができる。訪問看護からの助言で、夜勤者が次の日の薬をセットしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や料理のつぎわけ等、できることをしてもらいように援助している。ゲームやカラオケを実施したり、コーヒーを飲んでいただいたり、生活に変化をつけるようになっている。趣味のプラモデルやビールの買い物に同行することもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に散歩にお連れしている。行事ごとがあるときはできるだけお誘いするようにしている。また、ご家族・知人が外食や外出にお誘いされることもある。またはご家族と家で過ごす時間をつくるなど、楽しみが増えるように支援している。	近くに河川敷公園や人吉城跡があり、訪問した当日も数人の方が外出から帰られる姿を見る事が出来た。また4名～5名の方は、家族や知人の協力で外食や外出をされる事があるようである。その他にも産業祭や花見、クリスマスイルミネーションの見学など、出来るだけ外出の機会を多く作る様にしている。	事業所は恵まれた環境にあり、家族等も協力的であるので、今後とも外出支援の輪を広げてほしいと思います。

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自分で所持している。ホームにてお金を管理している人でも受診時などには職員と一緒に支払を行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人やご家族の希望に添って、電話の取次ぎをしている。ご家族へは、毎月GH広報として写真つきでお手紙をお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内の模様替えや入居者と一緒に毎月のカレンダーをつくり、季節感を出すようにしている。水槽を置いたことで、みなさんの楽しみとなっている。今冬は畳のコーナーに炬燵を設置した。	利用者と職員が力を合わせて製作した桜のちぎり絵、また毎月心を込めて製作しているカレンダーなどで、壁面を飾っている。手作りの暖かさが伝わりとてもいい雰囲気でした。熱帯魚が泳ぐ水槽や季節感を感じる事の出来る生け花も、心が落ち着きました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き、畳のコーナーを造っていつでも語り合えるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	搬入できる範囲の物は持ってきてもらっている。また、ソファやイス等本人さんと話し合いながら使い勝手がよいように居室づくりをしている。	寝具はリース対応となっているが、ベッドについては事業所で装備している。家具やソファ、イスなどの調度品は、使い慣れた物を活かして部屋づくりをしてもらうよう勧めている。仏壇を持ち込まれている利用者も1名いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の認知度に合わせて、居室入口ドアに大きく名前を書いたり、トイレに近い居室への移動やトイレや洗面所などの表示をわかりやすい場所に貼っている。		